

# 文芸

## 俳句

蟬時雨左千夫の茶室暗かりき

池田 逸子

沙汰なきは無事の証や鯛雲

伊藤 敬子

敬老日喜憂重ねて老いにけり

伊藤 定男

宵月夜夫婦の語らひ子の安否

今関満喜子

朝露や濡れるる裾の重さかな

魚地 照子

産土の唄より始む盆踊

江森 悦子

元氣だね褒めて褒められ敬老日

川島 通則

蒼黒く寄せ来る波や敗戦忌

向後 寛

袋ごと飴呉るる子や敬老日

越川せつ子

向日葵やいよいよさびて種となり

小松 藤男

赤子泣かす稲穂風来る鬼来迎

佐瀬 輝夫

よく笑ふ百一才の敬老日

椎名万里子

傘寿すぎ軍歌忘れず敬老日

鈴木とし子

また無縁と敬老の日のこぼれさ

鈴木 利子

ラムネ飲み少年の日々からころと

玉虫 栗扇

お笑いに目の耀きて敬老日

土屋美枝子

アルバムへ敬老の日の笑み写す

土屋 義昭

松虫の金鈴に覚めややしげし

戸村 静華

母の顔思い浮べし敬老会

内藤 くに

夏休み終わりに嬉し母の午後

西崎さち子

吾亦紅夕日に焦げて紅となり

早川 勇

別人のやうに踊の輪の中に

藤田 雅夫

## 短歌

杖を持ち運動靴に身を固め

散歩に出でぬ己励まし

吉岡 信子

芝中に自然に生えし白き花

数多咲きあつ高砂百合の

鈴木 まさ子

山百合の咲く丘の辺を走りゆく

芹川 初子

パソコンで知識を得たる娘の料理

田崎 尚美

時には吾もそれを真似たり

高梨 キヨ

初挽ぎのオクラは両手に余る程

日照りの畑に勢ひあるなり

押尾 輝子

七月の風吹き渡る坂道を

自転車に乗り下りゆくなり

八角 三枝

老人カーに頼りて横断待つ吾に

もみじマークの車が停まる

青木 秀子

妹の元気な日々を語ろうと

みなと集まる柏の会に

平山 芳子

図書館の窓の日よけにゆれ揺れる

マロニエの葉は影絵となりて

西山満里子

温室に二万五千鉢の蘭育て

恒之さんは倦まず培ふ

斉藤つね子

飲んでなほ演歌の音色によしれる

酒の深さは不思議な世界

越川 義則

音立てて冷麦すするふたり膳

庭に干したる梅匂いくる

土屋 好

軒の灯の下にべつたり青蛙

夜の小虫を待つ構へ

越川 福子

早く来て秋の涼しさ待ち遠し

余りに続く眞夏の暑さに

鈴木 益郎

思ひ出の一つ一つを断つ如く

不用となりし物を捨てゆく

高梨 キヨ

## こうほう 博物館 55

### 大きな土器

縄文時代の遺跡を発掘して  
いると、時より大きな土器が  
出土することがあります。中  
には、口の直径が五〇センチ  
を超え、高さが一メートルに  
及ぶ土器もあります。

今回紹介する土器は、昭和  
六十三年に発掘調査された東  
長山野遺跡から出土した、今  
から約四千五百年前の縄文中  
期のものです。

この土器の形状は、口径が  
五〇センチ、底がなく高さが  
四〇センチで、深鉢形です。  
全体に縄文様が施され、口付  
近には粘土紐を張り付けた渦  
巻や平行線文様が、そして胴  
部にはヘラ描きの三本平行線  
が縦横に走り、アクセントを  
つけています。

この土器は、遺跡の中央部  
にあった貯蔵穴を再利用した  
墓穴から逆さまに伏せられた  
状態で出土し、さらに内側に  
もほぼ同じ大きさの土器が伏  
せられてあり、その下には正  
常な置き方で浅鉢形の大きな  
土器がありました。

なぜ墓穴かという点、この

浅鉢の上から人の骨がわずか  
に残って出土したからです。  
つまり、人を埋葬するときに、  
穴の底に浅鉢を置き、その上  
に遺体を乗せ、遺体を覆うよ  
うに土器を二個被せたと思わ  
れます。この大きな土器は、  
人を埋葬するために作られた  
ものかもしれません。そのよ  
うな埋葬専用の土器は甕棺と  
呼ばれ、縄文時代の遺跡から  
もたまたま出土しますが、多く  
は九州の弥生時代遺跡から出  
土しています。

町民ギャラリー(図書館)で  
開催中の「考古資料で見える横  
芝光町の歴史展」で、この土  
器を見ることが出来ます。



▶東長山野遺跡出土の深鉢型の土器